

ISSN 0912-8921

Official Journal of  
The Japan Society  
for Biomedical Gerontology

37  
No.2  
2013

# BIOMEDICAL GERONTOLOGY

## 基礎老化研究

日本基礎老化学会第36回大会

2013年6月4日(火)~6日(木)

大阪国際会議場(日本老年学会合同会会場／ポスター会場)

大阪大学中之島センター(講演会場)

プログラム・発表抄録

附 ● 基礎老化学会サーキュラー 第96号



編集委員会委員長：重本 和宏 東京都健康長寿医療センター研究所 老年病研究チーム  
〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

編集委員会幹事：清水 孝彦 千葉大学大学院医学研究院 先進加齢医学講座  
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1

編集委員会委員：内田 さえ 東京都健康長寿医療センター研究所 老化制御研究チーム  
〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

大澤 郁朗 東京都健康長寿医療センター研究所 老化制御研究チーム  
〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

近藤 嘉高 東京都健康長寿医療センター研究所 老化制御研究チーム  
〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

島田 厚良 愛知県心身障害者コロニー 発達障害研究所 病理学部  
〒480-0392 愛知県春日井市神屋町713-8

樋上 賀一 東京理科大学薬学部生命創薬科学科  
〒278-8510 千葉県野田市山崎2641

## BIOMEDICAL GERONTOLOGY

vol. 37 No. 2 2013

Official Journal of The Japan Society for Biomedical Gerontology

Editor-in Chief: Kazuhiro Shigemoto, Research Team for Geriatric Medicine,  
Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 35-2 Sakaecho, Itabashi-ku,  
Tokyo 173-0015, JAPAN

Managing Editor: Takahiko Shimizu, Department of Advanced Aging Medicine,  
Chiba University School of Medicine, 1-8-1 Inohana, Chuo-ku,  
Chiba 260-8670, JAPAN

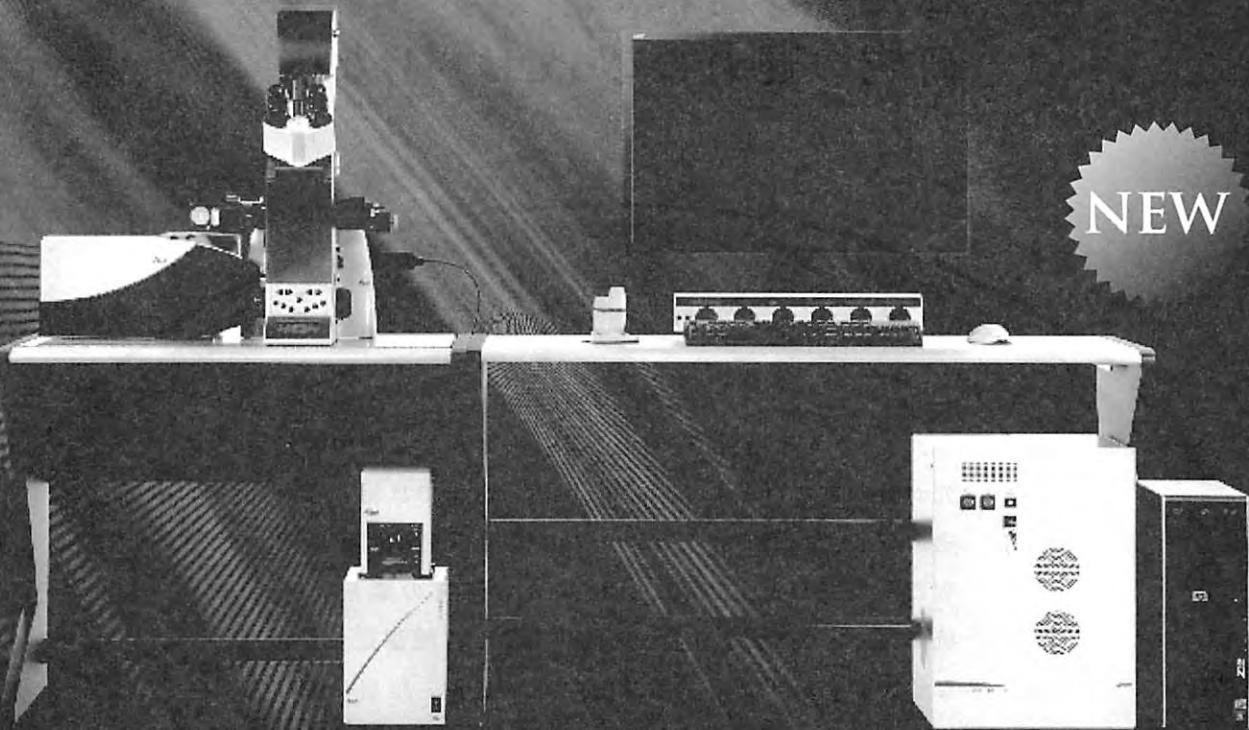
Editors: Sae Uchida, Research Team for Functional Biogerontology,  
Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 35-2 Sakaecho, Itabashi-ku,  
Tokyo 173-0015, JAPAN

Ikuroh Ohsawa, Research Team for Functional Biogerontology,  
Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 35-2 Sakaecho, Itabashi-ku,  
Tokyo 173-0015, JAPAN

Yoshitaka Kondo, Research Team for Functional Biogerontology,  
Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 35-2 Sakaecho, Itabashi-ku,  
Tokyo 173-0015, JAPAN

Atsuyoshi Shimada, Institute for Developmental Research, Aichi Human  
Service Center, 713-8 Kamiya-cho, Kasugai, Aichi 480-0392, JAPAN  
Yoshikazu Higami, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo University of  
Science, 2641 Yamazaki, Noda, Chiba 278-8510, JAPAN

*Change The Bio-Imaging*



# Leica TCS SP8

ライカ スペクトル共焦点レーザー顕微鏡システム

最先端の、その先へ。限界に挑み続けてきたライカが、またバイオイメージングの歴史を塗りかえる。

画像のクオリティ、レスポンス、操作性。全てを極限まで研ぎ澄ました、未体験のマイクロスコープ。

研究者の飽くなき探究心に、ライカ史上・最高の性能が応えます。

- HyD 超高感度ハイブリッドディテクター
- Lucid Vision Optics 最新のコーティング技術を導入
- LIAchroicビームスプリッター 抜群のコントラスト
- 新グラフィカルインターフェース+コントロールパネル さらに快適な操作性

- 固体レーザー群／ガスレーザー群 豊富なラインナップ
- 広視野・高解像スキャン 視野数22,819<sup>2</sup>画素
- 新型ポイント高速スキャナ ポイントスキャナの最高速を更新
- 新設計CS2対物レンズ群



**Leica**  
MICROSYSTEMS

ライカ マイクロシステムズ 株式会社

本社 〒108-0072 東京都港区白金1-27-6白金高輪ステーションビル6F Tel.03-5421-2813 Fax.03-5421-2891

大阪 Tel.06-6374-9771 / 名古屋 Tel.052-222-3939 / 福岡 Tel.092-282-9771

⇒URL <http://www.leica-microsystems.co.jp> ⇒E-mail: [lmr@leica-microsystems.co.jp](mailto:lmr@leica-microsystems.co.jp)



## 私たちの遅れが、 研究の遅れになつてはいけない。

今、さまざまな場所で、さまざまな生命科学に関する研究が行われています。それは、現代の医学では治せない病の研究だったり、人のカラダの仕組みを解明する研究だったりします。私たちは、そんな研究の素となる、抗体、タンパク質、有機・無機化合物、各種測定キットなど数多くの研究用試薬を国内外へ提供。発展し続けるライフサイエンス分野の最新研究動向を的確に把握し、さまざまなニーズに応えた戦略を展開しています。私たちが動向を把握していないことで、ある研究が進まない。そんなことがないよう、研究者の方々の信頼を得ながら、これからも研究用試薬をお届けしていきます。

研究を、研究したい。

**岩井化学薬品株式会社**

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-2-10  
TEL:03-3241-2572 FAX:03-3270-2444

[www.iwai-chem.co.jp](http://www.iwai-chem.co.jp)

**O'HARA & CO., LTD.**

4-28-16 Ekoda, Nakano-ku, Tokyo 165-0022, JAPAN

TEL 81-3-3389-2451

FAX 81-3-3389-2453

OFCR

OFCR1

OFCR4

EP1

EP2

LD1

LD4

CSI

SSI

TIME

MWM

ERM

BCM

TM1

YM1

YM2

FZ1

FZ4

HP4

VD8

FC8

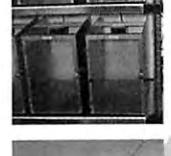
FC12

SR2

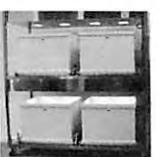
SR4

HC8

FWI



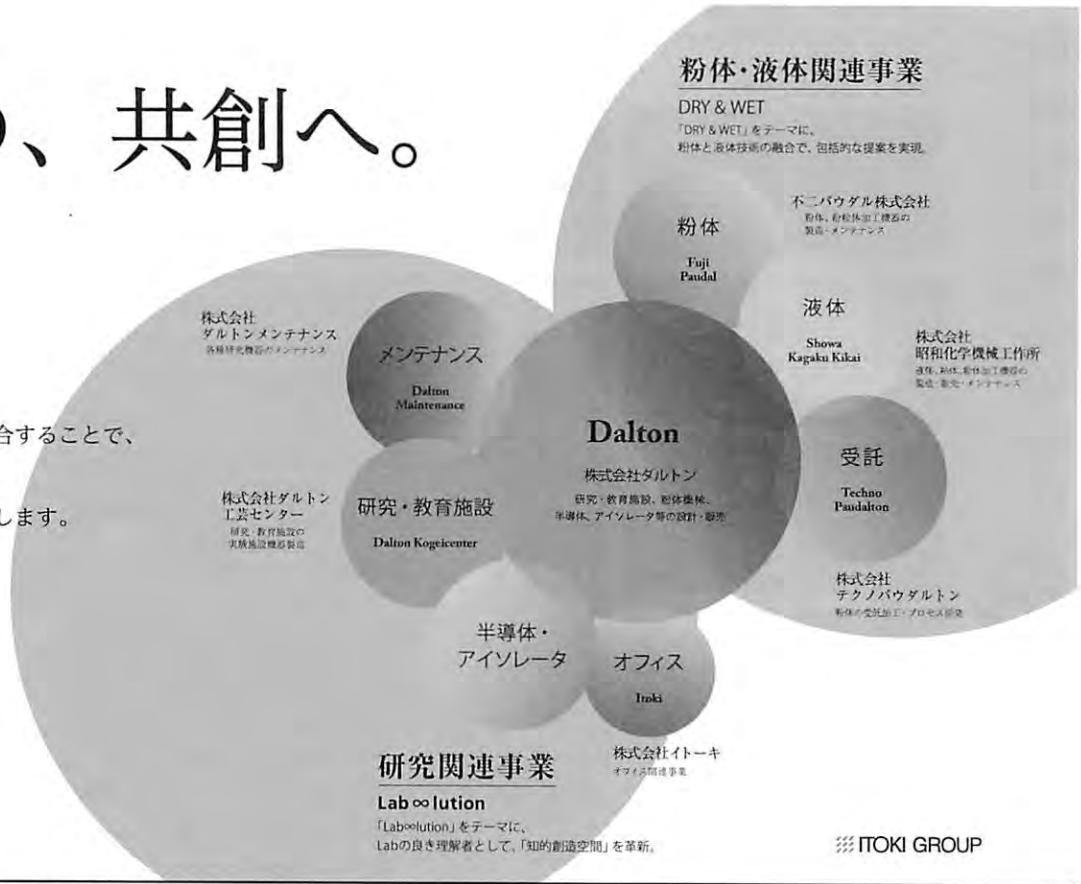
- Morris water maze
- Eight-arm radial maze
- Barnes circular maze
- Contextual and cued fear conditioning test
- Passive avoidance test (Step-through type)
- Y-maze
- T-maze
- Conditioned taste aversion test
- Operant test
- Active avoidance test (Shuttle box type)
- Open field test
- Elevated plus maze
- Social interaction test
- Light/dark transition test & Conditioned place preference test
- Porsolt forced swim & Tail suspension test
- Vogel type conflict test
- Startle response & Pre-pulse inhibition test
- Plantar pain test
- 24 hour home cage activity and social behavior monitoring
- Three-points meter
- Activity sensor system
- Wheel meter
- Drinko-meter
- Food deprivation tool
- Accelerating rotarod test
- Wire hanging test
- Grip strength test
- Balanced beam test
- Sound attenuating room AMC type / AMG type / AMS type
- Mouse observation tools

[www.ohara-time.co.jp](http://www.ohara-time.co.jp)

# 創造の、共創へ。

—創造の、共創へ。—

私たちダルトングループは、  
おののの知と技術を結集し、  
お客様のあらゆる創造活動と融合することで、  
革新的な価値を共に創造し、  
豊かな社会と輝ける未来に貢献します。



株式会社 ダルトン

www.dalton.co.jp/ info@dalton.co.jp

〒104-0045

東京都中央区築地5丁目6-10 浜離宮パークサイドプレイス

TEL03-3549-6810 FAX03-3549-6851

## 最も使いやすい！

動物行動ビデオトラッキングシステム



Version 3.0.00

動物の行動、軌跡を自動的に記録！

- 市販のウェブカメラ・アナログカメラ使用可能
- 実験動画記録機能を内蔵！
- 解析結果を Excel に出力可能！

用途や予算に応じて  
構成可能な  
モジュール構造

Panlab HARVARD  
APPARATUS

社会行動評価  
接觸回数など社会行動評価  
最大 8 四まで複数個体認識

動・不動評価  
不動状態を検出する  
グローバルアクティビティ機能

TriWise 3 点検出

頭部・重心・尾部の 3 点検出  
立ち上がり・回転・物体探査評価

マルチエリア解析

最大 100 までの複数エリア  
同時解析 (1 エリアにつき 1 四)

カスタマイズモジュール

ゾーンの形状や解析項目を自由に設定可能！  
幅広い実験に柔軟に対応できます！



カスタマイズモジュールのゾーン設定画面

実験別モジュール

ゾーンの形状や解析項目がテンプレート設定されています。  
簡単な設定で、安価で購入することができます。



オープンフィールド



モーリス水迷路



高架式十字迷路



T 字・Y 字迷路



空間嗜好性試験



強制水泳試験



バイオリサーチセンター株式会社  
www.brck.co.jp sales@brck.co.jp

本  
東  
大  
福  
京  
阪  
岡  
岡  
福  
社 : 〒461-0001 名古屋市東区泉二丁目 28-24 (ヨコタビル 4F)  
TEL(052)932-6421 FAX(052)932-6755  
京 : 〒101-0032 東京都千代田区岩木町一丁目 7-1 (瀬木ビル 2F)  
TEL(03)3861-7021 FAX(03)3861-7022  
阪 : 〒532-0011 大阪市淀川区西中島六丁目 8-8 (花原第 8 ビル)  
TEL(06)6305-2130 FAX(06)6305-2132  
岡 : 〒813-6591 福岡市東区多の津一丁目 14-1 (FRCビル 6F)  
TEL(092)626-7211 FAX(092)626-7315

## 【日本基礎老化学会賛助会員一覧】

下記の諸団体が賛助会員として本学会を支えています。協力を感謝いたします。

賛助会員は随時募集しております。事務局にお問い合わせください。

あなたの会社も老化研究を支えてみませんか？入会をお待ちしています。

株式会社 明治 研究本部

株式会社ファンケル総合研究所

東京大学高齢社会総合研究部門

小林製薬 中央研究所 研究部

東レ株式会社 医薬医療事業本部

日本水産株式会社

株式会社 ライフイズ

株式会社 小原医科産業

株式会社 ブレインサイエンス・イデア

岩井化学薬品株式会社

株式会社 DALTON

テクニプラス・ジャパン株式会社

ライカマイクロシステムズ株式会社

## この雑誌について（投稿される方へ）

「基礎老化研究」(Biomedical Gerontology) は、日本基礎老化学会の会誌で、年4回：2月、5月、8月、11月（但し、当面は年3回）発行される。内容は、本学会員より投稿された、または、本学会員及び編集委員会より依頼を受けた者からの巻頭言、総説（老化理論を含む）、研究報告、トピックス、学会報告、随筆、書評、その他で構成される。但し、2号には年次大会のプログラムと発表抄録が、3号には基礎老化学会シンポジウムの抄録も掲載される。本誌は会員に無料で配布されるほか、希望に応じて頒価（現在は2,000円）で販売される。

## 投 稿 規 定

1. 依頼・投稿による総説を含み全ての原稿の採用については、編集委員会で決定する。総説及び研究報告については、編集委員または編集委員会で依頼した審査委員（評議委員）による査読を行う。
2. 著者による校正は、総説、研究報告、トピックスについてのみ1回行う。その際の追加、変更は出来ない。
3. 本誌に掲載された記事の著作権は、日本基礎老化学会に帰属する。但し、自分の著作を使用する場合には、本学会に断り無く自由に使用できる。
4. 目次、総説と研究報告の要旨、およびトピックスはインターネットのホームページに掲載される。発行後2年経過した総説、研究報告はインターネット上に公開される。
5. 総説、研究報告、トピックスの著者には、別刷り30部を無料で進呈する。30部以上希望の場合は有料（実費）となるので、投稿・原稿提出時にその旨連絡すること。
6. 原稿の執筆に際しては、本誌の執筆要領に従うこと。

## 執 筆 要 領

原稿は全てワードプロセッサーを使用する（原稿はコンピュータファイルとハードコピーで提出する）。1) 第1頁には、原稿の表題、著者名、所属機関、所在地を和文、英文で、また、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス記載する。著者が複数の場合は、連絡先の著者を明記する。2) 第2頁にも初めに、表題、氏名を書き、その後に本文を書く。3) 本文に節を設ける場合、1.、2.、3.、…を付けて節を示す。以下の項目は1)、2)、3)…、a)、b)、c)…とする。原稿のハードコピーはA4用紙を用い、横書きにプリントする。また、イタリック体、ギリシャ文字、記号が正しく出力されていることに注意する。同時に提出するコンピュータファイルは、テキストファイルまたはMSワードファイルで（欧語・数字は半角を用いる）、CDディスクに記録したものとする。図・表および写真は、PICT形式またはJPEG形式に圧縮したもの（使用ソフトを明記する）およびプリントアウトしたものを提出する。雑誌への印刷は白黒またはグレースケールで行う。カラー希望の場合は著者の負担とする。図表の挿入部位はプリントアウトしたものの欄外に示す。尚、本誌1ページは約1,600字に相当する。図の大きさを考慮して、全体の長さを調節すること。原稿（コンピュータファイル）はE-mailに添付して送付することができる。コンピュータファイルについては、印刷所あるいは編集委員会で対応できない場合は、著者に協力を求めることがある。

1. 卷頭言（展望） 刷り上がり1頁に収まるようにする。本文の長さは1,500字以内（タイトルと氏名を除く）。
2. 総説 一つのテーマについて、専門的知識に基づき、関連する多くの研究論文を総括、解説、評価した、所謂ミニレビュー。和文。
  - 1) 本文の長さ：図、表も含めて刷り上がりで6ページ（9,600字）程度を基本とする。
  - 2) 題名：40字以内とし、内容を的確に表したもので、且つ、読者の興味を引くよう工夫する。
  - 3) 要約およびキーワード：要約およびキーワード（5個以内の英語）を必ず付す。要約は日本語（400字以内）、およびその英訳（200 words以内）とする。
  - 4) 用語：本文中の用語はなるべく日本語にする。但し、欧語の方が一般的なもの、解りやすい場合は欧語でよい。外国人の名は原語、地名はカタカナで表記する。  
専門術語：それぞれの専門分野の用語集に従う。動植物の学名、遺伝子名などでイタリック体で印刷されるべきものについては、原稿に下線をつけるなどして区別する。
  - 略語：初出箇所にフルタームの後に括弧で括った略語を記入する。可能なら日本語を入れる。
  - 文体：「である」調とする。
  - 数字・単位：数字はアラビア数字とし、単位は国際単位系を用いる。
- 5) 引用・参考文献：引用文献は論文中に引用した順に番号をつけて表示する。本文中では該当する位置に〔 〕で括って表示する。1つの事柄に複数の論文を引用する場合には〔1,5,7〕または〔2-6〕のように記述する。著者名を引用する場合で3名以上の連名の時は、それ以下を“ら”を用いて省略する。末尾文献リストは引

用した順とし、記載は以下の通りとする。未発表論文、私信は末尾文献リストには加えず、本文中の該当する位置に〔 〕で括って表示する。

1. Sun J and Tower J. FLP recombinase-mediated induction of Cu/Zn-superoxide dismutase transgene expression can extend the life span of adult *Drosophila melanogaster* flies. *Mol Cell Biol* 19:216-228, 1999.
2. Roth GS, Ingram DK and Cutler RG. Primate models for dietary restriction research. In: *Biological Effects of Dietary Restriction*, edited by Fishbein L. Berlin: Wiley, 1991, p. 193-204.
3. 仲村賢一, 下村一, 泉山七生貴, 田久保海苔 ヒト組織の加齢に伴うテロメア短縮. *基礎老化研究* 24:72-76, 2000.
- 6) 図、表、写真：そのまま印刷できるものに限る（手書きのもの受け付けない）。文献から引用する場合は、引用を明記すると共に、引用の許可が必要な場合には、著者の責任で許可を取っておくこと（許可証のコピーを原稿と共に提出すること）。白黒またはグレースケールが原則。
- 7) 図、写真にはタイトルと説明文を付ける。
3. トピックス 最近の話題性のある研究（または雑誌記事）の紹介。長さは刷り上がり4頁以内（1,600 - 6,400字）。その他は総説に準じる。但し、要旨は不要である。
4. 学会報告、海外便り、国内外の学術集会の紹介記事。長さは1,600字以内。留学などで滞在しているまたは過去に滞在していた研究室、訪問した研究施設の見聞の紹介記事。
5. 書評 最近出版された書籍の紹介。1,600字以内。
6. 隨筆 長さは刷り上がり2頁（3,200字）以内。
7. 原稿の送付およびその他の問い合わせ、下記宛てにe-mailで。  
編集委員会委員長：重本和宏（kazshige@tmig.or.jp）  
または、編集幹事：清水孝彦（shimizut@chiba-u.jp）

## 目 次

|                            |       |
|----------------------------|-------|
| 第 36 回日本基礎老化学会大会 ご挨拶       | 3     |
| 開催概要                       | 4     |
| 会場周辺図および交通案内               | 5     |
| 会場案内図                      | 6-7   |
| 参加者・発表者へのご案内               | 8-9   |
| 第 28 回日本老年学会総会 合同プログラム     | 11-14 |
| 第 36 回日本基礎老化学会大会 プログラム     | 15-22 |
| 第 36 回日本基礎老化学会大会 発表抄録      | 23-46 |
| 第 36 回日本基礎老化学会大会 賛助団体芳名    | 47    |
| 学会報告                       |       |
| 第 34 回日本基礎老化学会シンポジウム 磯部 健一 | 49-50 |

附

基礎老化学会サーキュラー 第 96 号

表表紙：大阪国際会議場・大阪大学中之島センター（昼景）

裏表紙：大阪国際会議場・大阪大学中之島センター（夜景）

# 第 36 回 日本基礎老化学会大会

## (第 28 回 日本老年学会総会)

### 会期

平成25年（2013年）

6月4日（火）合同会（日本老年学会）  
6月5日（水）分科会（日本基礎老化学会）  
6月6日（木）分科会（日本基礎老化学会）

### 会場

大阪国際会議場（日本老年学会合同会会場／ポスター会場）

大阪大学中之島センター（講演会場）  
(リーガロイヤル NCB)  
(リーガロイヤルホテル)

### 大会長

森 望

（長崎大学医学部神経形態学（解剖学第一））

## 第36回日本基礎老化学会大会 ご挨拶

この度、第36回日本基礎老化学会の大会長を仰せつかり、平成25年（2013年）6月4日（火）～6日（木）、大阪国際会議場および大阪大学中之島センター佐治敬三メモリアルホールを会場として年会を開催する運びとなりました。まずは、日本基礎老化学会の活性化のために多くの演題を登録いただきました会員の皆様に感謝申し上げます。今大会は第28回日本老年学会総会として老化関連7学会との合同大会として開催されます。基礎老化学会への登録で初日の日本老年学会の合同プログラムはもちろん、分科会期間中の他学会のプログラムへもすべて自由に往来できる機会ですので、是非広い視野で改めて自身の老化研究を見直す契機にしていただければと思います。

私ども事務局は長崎にありながら、今回、大阪での大会をプランするにあたりまして、基本テーマを「Homeostasis and Lifestasis：恒常性の維持と破綻から考える老化機構と老化制御」としました。多くの基礎老化学研究者が、代謝であれ免疫であれ、神経であれ筋肉であれ、どのような組織で老年性変化を追っていても、結局は生物学の基本である「恒常性」に行き着くように感じたからであります。会員外からの特別講演とランチョンセミナーには、特にこの点を重視しました。この内容に密接に関わる問題にチャレンジしトップを走り続けておられる2名の先生にお願いすることにしました。クロトーマウスとオートファジー、鍋島陽一先生（神戸先端医療センター）と大隅良典先生（東京工業大学）です。

一般演題は口演とポスターとし、若手研究者はポスターのみとしました。一昨年の東京での合同大会の時には東日本大震災の影響で韓国側からの来日が急遽キャンセルされたことを覚えておられる方も多いと思います。日韓合同シンポジウム、今回はソウル市立大学の生物学部のDr. Eun Seong Hwangら10名を招聘しています。送られてきた抄録内容を吟味し、日本の基礎老化学メンバーの研究背景と照らし合わせて、日韓合同シンポジウムを韓国側7名、日本側3名で3つのトピックに区分しました。残り3名の韓国側演題は一般の口演の中に組み入れました。一般口演の発表時間が質疑を含めて10分と短い時間で恐縮ですが、どうか有意義な相互理解と啓発の機会にしていただけますよう期待しております。

最終日、学術プログラムを少し早めに切り上げて、総会後の夕方には、市民公開講演会を企画しました。大阪の市民の方、特にご高齢の方々への支援メッセージとして「百寿者から学ぶライフスタイル」というタイトルにしています。日本の百寿者研究の最先端を俯瞰しつつ、実際の百寿者、中でもスーパーセンテネリアンである昇地三郎先生（福岡教育大学名誉教授／106歳児／世界の健康長寿のマスコットボイ）にもご登壇いただきます。どうしたら元気に長生きができるのか、どうしたら老いない脳をきたえられるのか、それを皆で考える。大阪の高齢者を元気づける面白い企画にしています。そのために、先日、福岡から昇地先生を沖縄にお連れして、琉球大学の脳外科の石内勝吾先生にご協力いただいて、106歳の脳を精査して参りました。石内先生にはこの講演会でその結果をご披露いただけるものと思います。会員の皆様にも興味深い話題だと思います。是非ご一緒に参加いただき、日頃の研究成果を市民還元する場にもご協力いただければと思います。

本大会を準備するにあたりましてご協力いただきました諸先生、東京の基礎老化学会の関係者の方々、また長崎の教室員の努力にも感謝しつつ、皆様に6月、大阪でお会いできることを楽しみにしております。中日の晩には新装なった大阪のフェスティバルホールの建物の一角で懇親会といたします。老化の基礎研究について、大いに論じ、大いに楽しみ、大いに夢みる会といたしましょう。

第36回日本基礎老化学会大会

大会長 森 望

## 第36回日本基礎老学会大会 概要

大会長：森 望（長崎大学医学部神経形態学（解剖学第一））

会期：平成25年（2013年）6月4日（火）～6日（木）

4日（火）は日本老年学会総会（合同会）

5～6日（水、木）は日本基礎老学会（分科会）

会場：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）（ポスター会場／機器展示場）

大阪大学中之島センター佐治敬三メモリアルホール（講演会場）

大阪国際会議場とリーガロイヤルホテル、リーガロイヤル NBC が関連他学会の会場となります

|                |                             |
|----------------|-----------------------------|
| 参加費：事前登録正会員    | 10,000円                     |
| 事前登録学生会員       | 4,000円                      |
| 当日登録正会員・非会員    | 12,000円（非会員は当日・事前とも12,000円） |
| 当日登録学生会員・初期研修医 | 5,000円（証明書提示）               |

★老年学会総会の取り決めにより事前登録のない会員（当日参加）の参加費は12,000円です。参加される会員の方は、5月31日までに大会事務局まで参加登録をして下さい。

（詳細は日本基礎老学会のホームページに掲載している登録案内を参照下さい。）

ネームカード：事前参加登録された方も当日参加の方も会場受付に立ち寄りネームカードとネームカードケースをお受け取り下さい。領収書もお渡します。

（ネームカードケースは後の大会でも再利用しますので、最終日に退場される時に受付に返却下さい。）

### 一般演題：

口演（5セッション33演題）

ポスター（合同5件、一般9件、若手12件）

### 特別講演：

大隅良典（東京工業大学）「酵母から見えてきたオートファジーの世界」

### ランチョンセミナー（タカラバイオ提供）：

鍋島陽一（神戸先端医療センター）「クロト－：生理機能、分子機能、病態」

### 第12回日韓合同シンポジウム（The 12<sup>th</sup> Japan-Korea Gerontologist Joint Symposium）

韓国からDr. Eun Seong Hwang他10名の方々を招聘しています。日韓の老化研究に関わる日本学術振興会のアジア研究教育拠点事業と併催いたします。

### 市民公開講演会「百寿者から学ぶライフスタイル」

現在106歳でも世界を股にかけて講演旅行される日本初の障害児教育施設「しいのみ学園」創設者、昇地三郎先生（福岡教育大学名誉教授／文学博士・医学博士）もご講演されます。会員の方も是非ご参加下さい。

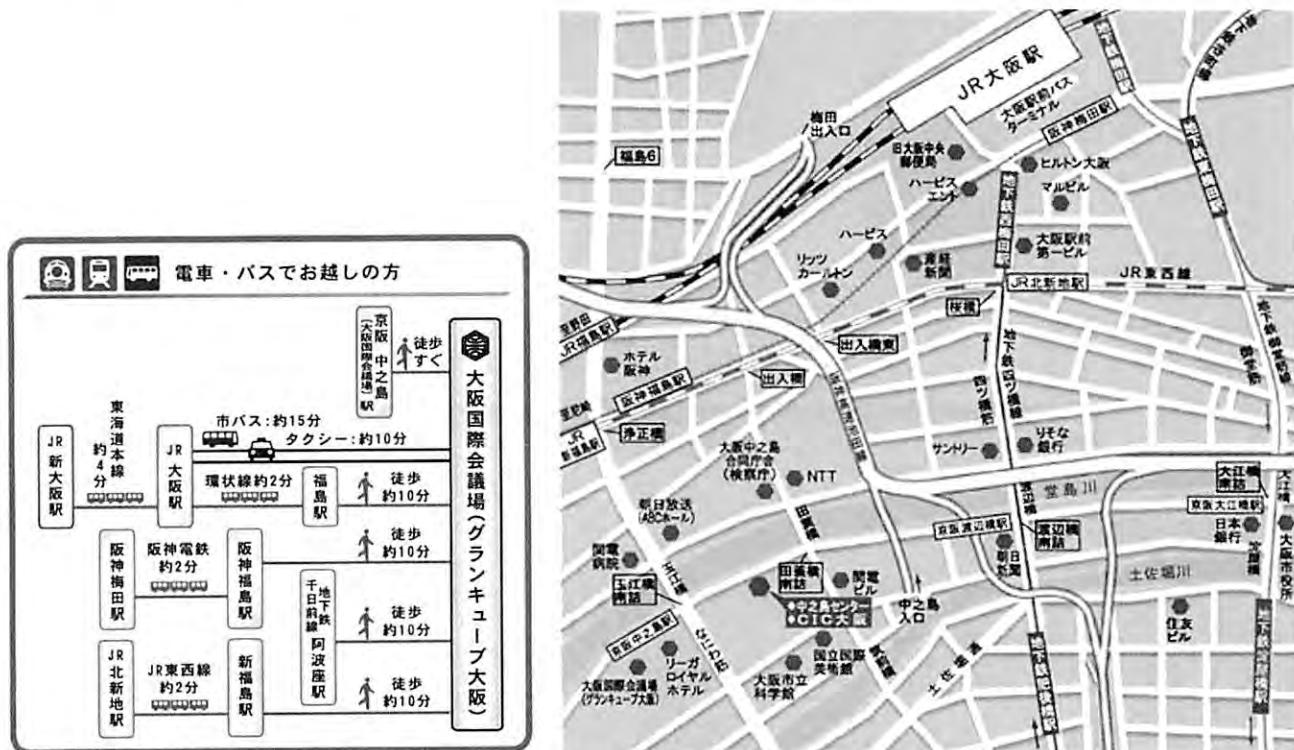
## 会場周辺案内図および交通案内

下図（右）の左下にある大阪国際会議場（グランキューブ大阪）とリーガロイヤルホテルが第28回日本老年学会のメイン会場となります。その右手の大坂大学中之島センターが第36回日本基礎老化学会の講演会場となります。ポスター会場は大阪国際会議場の3階です。機器展示会場もこちらになります。

大会初日（4日）の参加受付は大阪国際会議場の5階で、5、6日の参加受付は中之島センターの講演会場前で行います。

大阪大学中之島センターへは地下鉄四ツ橋線の「肥後橋駅」か、京阪中之島線の「中之島駅」あるいは「渡辺橋駅」が最寄り駅となります。

大阪国際会議場（グランキューブ大阪）へは、下図のとおりJRや阪神電車の「福島駅」または地下鉄千日前線の「阿波座駅」も利用いただけます。



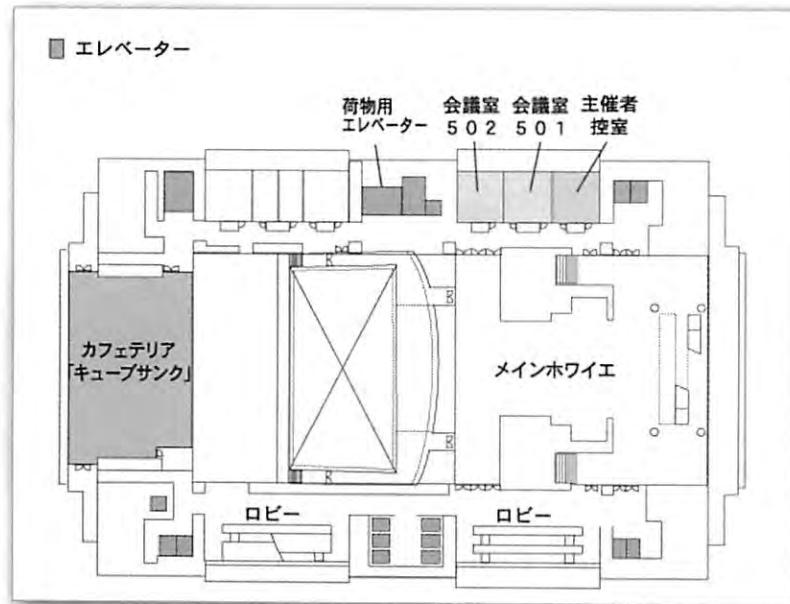
なお、5日（水）の晩の日本基礎老化学会の懇親会は当初大阪市中央公会堂レストラン中之島俱楽部を予定しておりましたが、講演会場からの移動の便等を考慮し、会場近くの肥後橋に新設となった中之島フェスティバルタワー2階の「フェスティバル&ビアホール」で行うことといたしました。会場から東へ徒歩5～10分程度です。

## 会場案内図

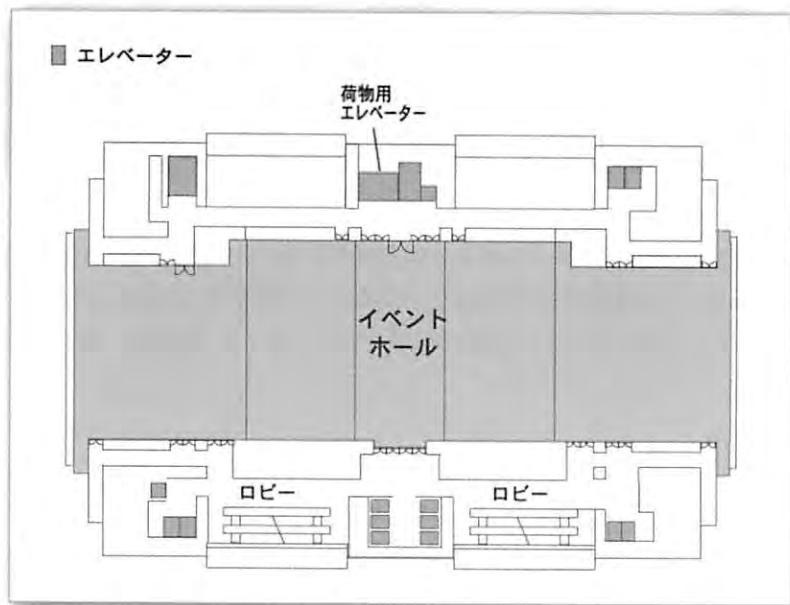
### (大阪国際会議場／グランキューブ大阪)

1階はプラザステージ、2階はティールーム「カフェキューブ」、5階にはカフェテリア「キューブサンク」、12階にはレストラン「グラントック」があります。

受付（5階）メインホワイエ



ポスター会場／機器展示場（3階）イベントホール



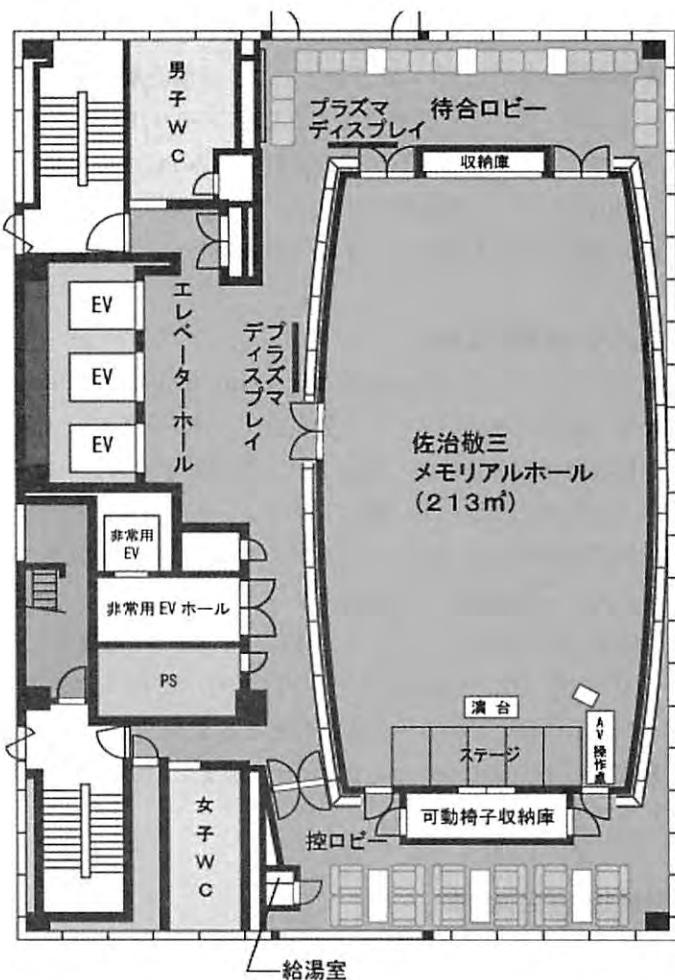
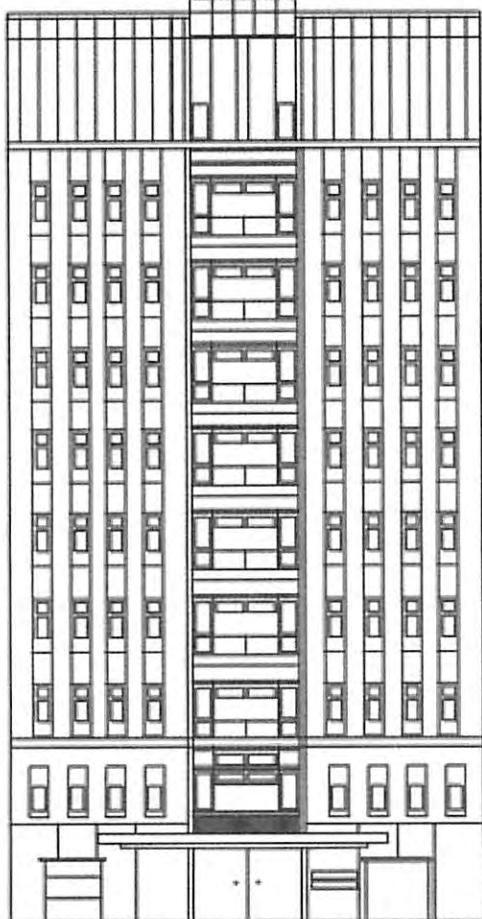
上記以外の会場については、日本老年学会のポケットプログラムを参照下さい。

## 会場案内図 (大阪大学中之島センター)

大阪中之島にある下の10階建ての建物が大阪大学中之島センターです。2階にはカフェレストラン「スコラ」があります。



1階の入り口から入って右手奥のエレベータで10階に上がっていただくと講演会場の佐治敬三メモリアルホールがあります。ホール入り口付近に会場受付を設置いたします。



## 参加者・発表者へのご案内

### 参加受付

6月4日 大阪国際会議場5階ホワイエ

6月5日／6日 大阪大学中之島センター10階

★会期中は、受付時にお渡しする「参加証」を必ず着用下さい。この参加証で第28回日本老年学会総会および他の関連学会のプログラムに参加いただけます。

★受付にてポケット型合同プログラム、ネームケースを配布します。ネームケースは再利用しますので、お帰りの際は大阪中之島センターの基礎老学会受付に返却下さい。

### ランチョンセミナー整理券

★6日のタカラバイオ提供のランチョンセミナーの整理券は展示会場のタカラバイオのブースにて配布予定といたします。なくなり次第終了しますが、ご了解下さい。残券がある場合には6日の11:30以降に講演会場前で配布します。整理券はお一人あたり一枚まで、当日分のみ発行します。

★4日の日本老年学会総会でのランチョンセミナーおよび老化関連他学会のランチョンセミナーについては当日会場にてお問い合わせ下さい。または、日本老年学会のポケットプログラムを参照下さい。

### 座長・講演者へのご案内

★座長の先生はセッション開始の15分前までに「次座長席」にお越し下さい。各セッションの進行は座長に一任しますが、時間内の進行が可能となりますようご協力下さい。

★一般口演は発表8分、質疑2分でお願いします。日韓合同シンポジウムは発表12分、質疑3分でお願いします。

★講演者は発表時間の30分前までに、講演会場横の「発表受付」にお越し下さい。発表データ（パワーポイントファイル）は、原則として、USBメモリで持参下さい。発表データは係の者が試写を行います。動画のあるプレゼンテーションの場合は持ち込みPCでの接続をいたします。必要な場合は通常のアダプター（Mini-D-sub15ピン）をご持参下さい。

★お借りしました発表データはご発表のセッション終了後、こちらで確実に消去いたします。

### ポスター発表のご案内

★ポスターサイズは国内通常の横90cm、縦190cmのボードを使用します。

★掲示場所：合同ポスター、分科会ポスターとともに、大阪国際会議場3階です。合同ポスター発表は6月4日午前8時から3日間、一般ポスター及び若手ポスターは6月5日午前8時30分から2日間掲示可能です。指定された番号のボードに掲示して下さい。発表終了後、ポスターは6日の午後3時までには撤去願います。撤去終了時間を過ぎて残っているポスターはこちらで処分させていただきます。

★ポスター発表時間：合同ポスターは4日の午後14:30～15:30です。発表時間は説明6分、討論3分ですが、座長の指示に従って下さい。分科会ポスター（基礎老化分）は6日の午前中、若手ポスター（YP1～YP12）は9:00～10:00、一般ポスター（P1～P9）は10:00～11:00です。説明3分、質疑1分でお願いします。座長の指示に従い、スムーズな進行となるようご協力下さい。

★座長の先生はセッション開始10分前までにポスター会場受付にお越しいただき、座長用のリボンをお受け取り下さい。

### 基礎老学会奨励賞

40歳以下のポスター発表（若手ポスター12演題）が対象となります。理事が審査にあたり、若手奨励賞を若

干名選考し、最後の総会の場で発表、表彰いたします。

#### 理事会・評議員会・総会

☆いずれも場所は講演会場（大阪大学中之島センター 10 階佐治敬三メモリアルホール）

★理 事 会：4 日（火）16：00～17：00

★評議員会：5 日（水）12：15～13：00

★総 会：6 日（木）14：40～15：30

#### 合同懇親会・基礎老化懇親会

★第 28 回日本老年学会の合同懇親会は4 日（火）午後 17：30～19：30、場所はリーガロイヤルホテルの「光琳の間」を予定しています。

★第 36 回日本基礎老化学会の懇親会は5 日（水）午後 19：00～21：00。場所は講演会場から徒歩 5 分程度の中之島フェスティバルタワー 2 階の「フェスティバル＆ビアホール」です。懇親会費は 5 千円です。参加登録同様 5 月 31 日までに事前申し込みをお願いします（詳細は日本基礎老化学会のホームページに掲載している申込案内を参照下さい）。空きがある場合のみ、当日参加登録受付で申し込みを受付ます。

#### 機器展示

★大阪国際会議場 3 階

#### 問合せ先

第 36 回日本基礎老化学会事務局：長崎大学医学部神経形態学教室（解剖学第一）内

電 話：095－819－7019

ファックス：095－819－7017

E-mail: jsbg2013@ml.nagasaki-u.ac.jp

# 第36回日本基礎老化学会大会

## プログラム日程表

| 6月4日(火)      |                                     | 6月5日(水)                     |   | 6月6日(木)        |   |
|--------------|-------------------------------------|-----------------------------|---|----------------|---|
| 第1日目<br>老年学会 |                                     | 第2日目<br>基礎老化学会              |   | 第3日目<br>基礎老化学会 |   |
| 8:00         | 合同会<br>受付                           | 会場                          | 8:20<br>開会挨拶  | 会場             | 8:30<br>8:30~11:30 ポスター掲示               |
| 9:00         | 合同シンポジウム I<br>老年学における新たな展開          | 合同ポスター掲示                    | 9:00<br>口頭発表 I<br>細胞老化とその制御因子<br>(T1~T8)                    | 中之島センター        | 9:00<br>ポスターセッションA(若手)<br>(YP1~12)      |
| 11:00        | 特別講演<br>(日野原重明)                     | 大阪国際会議場                     | 9:50<br>口頭発表 II<br>モデル生物と老化学説<br>(T9~T13)                   |                | 10:00<br>ポスターセッションB(一般)<br>(P1~9)       |
| 11:50        |                                     |                             | 10:45<br>口頭発表 III<br>組織病態 I<br>(T14~T21)                    |                | 11:00<br>(移動)                           |
| 12:00        | ランチョンセミナー                           |                             | 12:10<br>評議委員会  |                | 12:00<br>ランチョンセミナー<br>(鍋島陽一)            |
| 13:00        |                                     |                             | 13:00<br>特別講演<br>(大隅良典)                                     |                | 13:00<br>口頭発表 V<br>組織病態 II<br>(T27~T33) |
| 13:45        | 会長講演<br>(荻原俊男)                      |                             | 14:15<br>日韓合同シンポジウム<br>(JK Joint Symposium)<br>(JKS1~JKS10) |                | 14:25<br>総会・表彰式                         |
| 14:15        | 合同<br>シンポジウム II<br>更なる健康長寿<br>をめざして | 14:30~15:30<br>合同ポスター発<br>表 | 14:30<br>口頭発表 IV<br>神経老化<br>(T22~T26)                       |                | 15:30<br>市民公開講演会 開場                     |
| 16:45        |                                     | 16:00~17:00<br>理事会          | 17:15<br>日本基礎老化学会懇親会<br>(中之島フェスティバルタワー2F)                   |                | 16:00<br>市民公開講演会                        |
| 17:30        | 合同懇親会<br>(リーガロイヤルホテル 光琳の間)          |                             | 17:25<br>19:00  |                | 18:00                                   |
| 19:30        |                                     |                             |   |                |   |

※時間は開始時刻・終了時刻を表示しています。

**第 28 回日本老年学会総会  
合同プログラム**

**( 6 月 4 日 )**

**The 28<sup>th</sup> Annual Meeting of  
the Japan Gerontological Society**

**PROGRAM**

## 第28回 日本老年学会総会合同プログラム

6月4日(火)

場所：大阪国際会議場

※ 以下は合同プログラム概要です。詳細なプログラムは受付で配布するポケットプログラムをご参照下さい。

9:00 – 11:00 シンポジウム I

老年学における新たな展開～注目される最近の動き～

座長：三木 哲郎（愛媛大学医学部 加齢制御内科学）  
小西 美智子（岐阜県立看護大学）

### 1 脳の中の寿命遺伝子

森 望 長崎大学医学部神経形態学（解剖学第一）

### 2 超高齢社会における歯科医学の役割

森戸 光彦 鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座

### 3 新しい抗認知症薬の登場とその展開

中村 祐 香川大学医学部精神神経医学講座

### 4 老年医学からの健康長寿へのアプローチ

栗木 宏実 大阪大学大学院医学系研究科老年・腎臓内科学

### 5 学際研究による老年社会科学からの健康長寿へのアプローチ

権藤 恭之 大阪大学人間科学研究科

### 6 地域包括ケアシステム体制に向けたケアマネジメントの進展

田中 滋 慶應義塾大学大学院経営管理研究科

### 7 高齢者看護の新たな展開 - 高齢在宅療養者へのテレナーシングの活用と効果

亀井 智子 聖路加看護大学老年看護学

11:00 – 11:50 特別講演

座長：折茂 肇（公益財団法人骨粗鬆症財団）

老年学の過去、現在と将来

日野原重明 聖路加国際病院

12:00 – 13:00 ランチョンセミナー 1 ~ 12

13:45 – 14:15 会長講演

座長：阿部 裕（大阪大学 名誉教授）

超高齢社会と老年学

荻原 俊男 森ノ宮医療大学 学長

14:15 – 16:45 シンポジウムⅡ

更なる健康長寿をめざして：超高齢社会における老年学の役割

座長：大内 尉義（東京大学大学院医学系研究科 加齢医学講座）  
白澤 政和（桜美林大学大学院老年学研究科）

基調講演： 長寿社会に生きる

秋山 弘子 東京大学高齢社会総合研究機構

1 健康長寿の実現をめざす基礎医学研究の展開

森下 竜一 大阪大学大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学

2 健康長寿をめざす医療はどうあるべきか

葛谷 雅文 名古屋大学大学院医学系研究科老年科学

3 健康長寿を支えるケアのあり方 - 一人暮らし男性高齢者の健康長寿をめぐって -

田高 悅子 横浜市立大学大学院医学研究科 地域看護学

4 健康長寿を支える gerontechnology の進歩

井上 剛伸 国立障害者リハビリテーションセンター・研究所 福祉機器開発部

5 超高齢社会におけるコミュニティのあり方 - つながりをつくりだす -

牧野 篤 東京大学教育学研究科

14:30 – 15:30 日本老年学会 / 合同ポスター

座長：三井 洋司（徳島文理大学・香川薬学部創薬学科）

合同 P23 マウス老化アミロイド (AApoAII) の沈着は小胞体ストレスを誘導する

羅 宏敏 信州大学大学院医学系研究科加齢適応医学系 加齢生物学分野

合同 P24 血管内皮細胞における A<sub>β</sub> 産生機構と脳アミロイド血管症

三河 隆太 国立長寿医療研究センター ラジオアイソトープ管理室

（名古屋大学大学院医学系研究科分子総合医学専攻）

合同 P26 マイネルト核刺激による大脳皮質層特異的な動脈拡張反応

堀田 晴美 東京都健康長寿医療センター研究所

合同 P27 神経保護因子 BDNF によるシグナルアダプター N-Shc 蛋白質（リン酸化型）の海馬神経細胞内局在の変化

大山 恭司 長崎大学医学部神経形態学（解剖学第一）

合同 P28 GM – CSF 依存的に長期増殖するマウス骨髄由来マクロファージ細胞の解析2

伊藤 佐知子 名古屋大学大学院医学系研究科 分子細胞免疫学

（以上は基礎老化学会分／他学会分を含めた全体のリストについては次頁参照）

17:30 – 19:30 合同懇親会

（会場：リーガロイヤルホテル「光琳の間」）

第28回日本老年学会総会 合同ポスター演題 6月4日(火) 14:30~15:30 (発表時間6分・討論時間3分)

| セッション | 学会名                                       | 演題No.  | 演題名   | 氏名            | 所属                          |
|-------|---|--------|---|---------------|-----------------------------|
| 社会部門1 | 座長: 服部万里子 (特定非営利活動法人渋谷介護サポートセンター)         |        |   |               |                             |
|       | 歯   | 合同 P01 | 特別養護老人ホームの入所者に対する「高齢者のための自立摂食維持マニュアル」の効果について                      | 渡邊 裕          | 国立長寿医療研究センター研究所             |
|       | 看護  | 合同 P02 | 地域高齢者の保健行動に関連した自己制御力  | 深田 順子         | 愛知県立大学看護学部看護学科              |
|       | 社会  | 合同 P03 | 地域における社会関係が高齢者の時間的展望にもたらす差異-寺の行事への参加の有無と配偶者の有無の観点から-              | 大橋 明          | 中部学院大学人間福祉学部                |
|       | ケアマネ                                      | 合同 P04 | K 圏域の訪問看護職が介護支援専門員とのチーム活動を行う上で感じる困難の内容ー在宅高齢者ケアに関する調査の自由記述の質的分析からー | 松井 妙子         | 香川大学医学部看護学科                 |
|       | ケアマネ                                      | 合同 P05 | 介護支援専門員の連携過程の分析ー訪問リハビリテーション専門職との関わりー                              | 丹野 克子         | 山形県立保健医療大学保健医療学部理学療法学科      |
|       | ケアマネ                                      | 合同 P06 | ケアマネジメント実践による要介護者等の状況変化の分析: 総合的調査結果をもとに                           | 畠 亮輔          | 北星学園大学福祉臨床学科                |
|       | ケアマネ                                      | 合同 P07 | 障害福祉領域のケアマネジメント効果評価に関する研究: 介護保険利用者との比較から                          | 清水 由香         | 大阪市立大学大学院                   |
| 社会部門2 | 座長: 西下彰俊 (東京経済大学現代法医学部)                   |        |   |               |                             |
|       | 医 39                                      | 合同 P08 | 「機能訓練専門デイサービス」のあり方に関する研究(第三報)-運動機能の長期的变化の介護度別検討-                  | 大金 朱音         | 豊田工業大学                      |
|       | ケアマネ                                      | 合同 P09 | 地域包括支援センター従事者の薬剤師業務に関する認識についてのアンケート調査                             | 栗林 淳          | 名城大学薬学部地域医療薬局学講座            |
|       | 社会  | 合同 P10 | コミュニケーションなき外出でも生活機能は維持できるか?首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究(CAPITALstudy)よ)     | 藤原 佳典         | 東京都健康長寿医療センター研究所            |
|       | 社会  | 合同 P11 | 前期・後期高齢者における社会活動の種類と生命予後との関係:全国高齢者総断調査データの分析                      | 小林江里香         | 東京都健康長寿医療センター研究所            |
|       | 看護  | 合同 P12 | 北海道の過疎地域における高齢者の生活機能に関する現状と課題-生活機能の概要-(第1報)                       | 高橋 順子         | 札幌保健医療大学看護学部看護学科            |
|       | 社会  | 合同 P13 | なぜ高齢化率が高い地域の高齢者は主觀的幸福感が高いのか?福井県における総合調査データから                      | 斎藤 民          | 国立長寿医療研究センター                |
|       | 社会  | 合同 P14 | 東日本大震災前後の中高年者の QoL と人生満足度: 自主アンケート調査結果から                          | コールバッハ・フローリアン | ドイツ日本研究所                    |
| 臨床部門1 | 座長: 吉村匡史 (関西医科大学精神神経科学)・神崎 恒一 (杏林大学 高齢医学) |        |   |               |                             |
|       | 看護  | 合同 P15 | 虚血性心疾患をもつ高齢患者が慢性期に自己管理する上で生じる問題                                   | 清塚 遊          | 前橋赤十字病院                     |
|       | 精神  | 合同 P16 | 郵送による生活機能調査回答未返送後期高齢者を対象とした訪問調査                                   | 井藤 佳恵         | 東京都健康長寿医療センター研究所            |
|       | 精神  | 合同 P17 | アルツハイマー病の焦躁感と関連する脳部位の検討:脳血流 SPECT による                             | 阪野 公一         | 名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野 |
|       | 精神  | 合同 P18 | VSRAD 解析における Z スコア高値とうつ病の関連について                                   | 下田 健吾         | 日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科        |
|       | 精神  | 合同 P19 | アルツハイマー型認知症における DTI パラメータと ADAS-J.cog の関連についての検討                  | 北村聰一郎         | 奈良県立医科大学精神医学教室              |
|       | 医 298                                     | 合同 P20 | 地域高齢者における MoCA-J の総合変化と低下の予知因子                                    | 藤原 佳典         | 東京都健康長寿医療センター研究所            |
|       | 精神  | 合同 P21 | ドネペジルとメマンチン併用療法における BPSD と介護負担の変化および脳血流との関連                       | 荒木 智子         | 島根大学医学部精神医学講座               |
| 基礎部門  | 座長: 三井洋司 (徳島文理大学 香川薬学部創薬学科)               |        |   |               |                             |
|       | 医 235                                     | 合同 P22 | 高脂血症薬の2型糖尿病罹患者心血管病合併予防効果について - 非高齢者から後期高齢者までの年代別検討 -              | 林 登志雄         | 名古屋大学医学部老年内科                |
|       | 基礎  | 合同 P23 | マウス老化アミロイド (AApoAII) の沈着は小胞体ストレスを誘導する                             | 羅 宏敏          | 信州大学医学系研究科疾患予防医学系加齢生物学      |
|       | 基礎  | 合同 P24 | 血管内皮細胞における A $\beta$ 産生機構と脳アミロイド血管症                               | 三河 隆太         | 国立長寿医療研究センター ラジオアイソotope管理室 |
|       | 医 337                                     | 合同 P25 | Parkinson 病関連分子 $\alpha$ シクレインの心血管疾患への関与                          | 鷹見 洋一         | 大阪大学 老年・腎臓内科学               |
|       | 基礎  | 合同 P26 | マイネルト核刺激による大脳皮質層特異的な動脈拡張反応  | 堀田 晴美         | 東京都健康長寿研 自律神経               |
|       | 基礎  | 合同 P27 | 神経保護因子 BDNF によるシグナルアダプター N-Shc 蛋白質(リン酸化型)の海馬神経細胞内局在の変化            | 大山 恭司         | 長崎大学医学部神経形態学教室              |
|       | 基礎  | 合同 P28 | GM-CSF 依存的に長期増殖するマウス骨髄由来マクロファージ細胞の解析2                             | 伊藤佐知子         | 名古屋大学大学院医学系研究科分子細胞免疫学       |
| 臨床部門2 | 座長: 沼本教子 (神戸市看護大学)・角 保徳 (国立長寿医療研究センター)    |        |   |               |                             |
|       | 医 134                                     | 合同 P29 | 地域在宅高齢女性のサルコペニアの実態や病態に関する研究                                       | 榎原 典子         | 武庫川女子大学 生活環境学研究科 食物栄養学専攻    |
|       | 歯   | 合同 P30 | 高齢者咀嚼機能評価の検討-EWGSOP サルコペニア臨床定義と診断基準を参考に-                          | 村上 正治         | 東京衛科大学 オーラルメディシン・口腔外科学講座    |
|       | 歯   | 合同 P31 | 高齢の閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者の特徴と口腔内装置の適応について                                 | 梅本 太二         | 福岡大学 医学部 歯科口腔外科学講座          |
|       | 看護  | 合同 P32 | 在宅高齢者の疼痛有症率と疼痛が生活機能と生活の質に及ぼす影響-介護保険制度における二次予防事業参加者を対象として-         | 古田 良江         | 浜松医科大学医学系看護学専攻              |
|       | 歯   | 合同 P33 | 全国の介護保険施設において実践されている口腔ケアに関する看護管理的取り組みの実態調査                        | 村松 真澄         | 札幌市立大学看護学部                  |
|       | 看護  | 合同 P34 | 急性疾患治療後の高齢者における生活リズムと栄養状態の関連性の検討                                  | 内部 孝子         | 松江赤十字病院                     |
|       | 歯   | 合同 P35 | 終末期高齢者の口を支えるために~多職種アンケート調査から見えてきた終末期歯科医療の役割~                      | 青 武雄          | 鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座             |

**第 36 回日本基礎老化学会大会  
プログラム**

**(6月5日、6日)**

**The 36<sup>th</sup> Annual Meeting of  
the Japan Society for Biomedical  
Gerontology**

**PROGRAM**

## 第36回 日本基礎老化学会プログラム

6月5日（水）

場所：大阪大学中之島センター講演会場

8:20 – 8:30 開会挨拶 森 望 長崎大学医学部神経形態学（解剖学第一）

8:30 – 9:50 口頭発表 I : 細胞老化とその制御因子

座長：伊藤 雅史（東京都健康長寿医療センター研究所）

清水 孝彦（千葉大学大学院・医学研究院）

T1 転写後調節機構を介した細胞老化の制御

杉本 昌隆 国立長寿医療研究センター老化細胞研究プロジェクトチーム

T2 老化関連因子 TARSH の細胞老化と癌抑制に関する機能解析

原田 稔展 国立長寿医療研究センター老化機構研究部

T3 Molecular insights into the mechanism of regulation of cellular senescence and transformation by CARF

ワダワ レヌー 産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門

T4 Life span modulation by ALT1, alanine-metabolizing enzyme, in *Saccharomyces cerevisiae*

Sung-Keun Lee Inha University, College of Medicine, Department of Pharmacology

T5 細胞周期制御因子 Dbf4 は DNA 損傷に応答するチェックポイントタンパクとして機能している

千葉 卓哉 早稲田大学 人間科学学術院基礎老化学研究室

T6 MST1-mediated phosphorylation of FOXO enhances its transcriptional activity in response to oxidative stress

本山 昇 国立長寿医療研究センター研究所 加齢健康脳科学研究所加齢病態研究室

T7 Maintaining Energy Level through Caloric Restriction Is a Critical Mechanism Guaranteeing Cellular Longevity in Budding Yeast

Cheol-Koo Lee Division of Biotechnology, College of Life Sciences & Biotechnology, Korea University

T8 後期高齢者テロメア長測定の意義について

飯田 万由 名古屋大学医学部老年内科

9:55 – 10:45 口頭発表 II : モデル生物と老化学説

座長：杉本 昌隆（国立長寿医療研究センター研究所）

細川 昌則（愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所）

T9 ゾウリムシにおける性的若返りポリペプチド・イマチュリンの遺伝子解析

芳賀 信幸 石巻専修大学理工学部

T10 乳酸菌 *Lactobacillus gasseri* SBT2055 による線虫の寿命延長とその作用機構

中川 久子 北海道大学遺伝子制御研究所 プロバイオティクス・イムノロジー研究部門

T11 Modulation of lifespan by sensory neurons in *C. elegans*

Seung-Jae Lee Department of Life Science/I-BIO/WCU ITCE, Pohang University of Science and Technology

T12 健康寿命の延長のメカニズム解明

須田 斎 東海大学大学院生物科学研究科

T13 Senemorphic Aging: the unification of evolutionary aging theories

ルーカス シケイラ トリンダーデ Department of Biological Sciences, Tokyo Metropolitan University

10:50 – 12:10 口頭発表Ⅲ 組織病態 I (皮膚、血管系、脂肪組織)

座長：山下 均 (中部大学・生命健康科学部)

樋上 賀一 (東京理科大学・薬学部生命創薬科学科)

T14 皮膚創傷治癒改善効果のあるオリゴヌクレオチドの同定及び機能解析

森 亮一 長崎大学 医学部 探索病理学 (病理学第一)

T15 老齢 SAMP1 マウスは皮膚の光老化様変化を自然発症する

千葉 陽一 愛知県心身障害者コロニー 発達障害研究所 病理学部

T16 高グルコース間歇刺激による血管内皮細胞の老化機序について

前田 守彦 名古屋大学医学部老年内科

T17 Liver X受容体アゴニストにより内皮細胞老化は抑制される

林 登志雄 名古屋大学医学部老年内科

T18 食品成分 (L-シトルリン及び L-アルギニン) 投与が動脈硬化及び血管老化の進展抑制に及ぼす影響に関する研究

山口 知恵 名古屋大学医学部老年内科

T19 マウス F型 ApoA-II の C 末ペプチドによるアミロイド線維形成阻害機序とアミロイドーシス発症軽減効果

澤下 仁子 信州大学大学院医学系研究科 疾患予防医科学系加齢生物学講座

T20 エボジアミンは脂肪細胞の mTOR-S6K シグナルを阻害しインスリン抵抗性を改善する

山下 均 中部大学・生命健康科学部・生命医科学科

T21 レスピラトロールによる脂肪細胞分化抑制とアポトーシス誘導のライブセルイメージング

井原 勇人 和歌山県立医科大学医学部 RI 実験施設

12:15 – 13:00 評議委員会

13:15 – 14:15 特別講演

座長：後藤 佐多良 (順天堂大学スポーツ健康科学部)

「酵母から見えてきたオートファジーの世界」

大隅 良典 (東京工業大学フロンティア研究機構)

14:25 – 17:15 日韓合同シンポジウム／Japan-Korea Joint Symposium

Welcome address:

Naoaki Ishii President of Japan Society for Biomedical Gerontology

座長：磯部 健一 (名古屋大学・医学部 微生物免疫学講座)

相垣 敏郎 (首都大学東京大学院)

遠藤 玉夫 (東京都健康長寿医療センター研究所)

Session 1 : Stem cell aging

Chairperson: Ken-ichi Isobe (Nagoya Univ)

JKS1 Expressional characteristics of human mesenchymal stem cells in progerin-and cultivation induced-aging cell model

Sang Ick Park Korea National Institute of Health (KNIH)

**JKS2 Enrichment and Characterization of Human Dermal Stem/Progenitor Cells**

Dong Wook Shin Amorepacific Corporation R&D Center

**JKS3 Toward personalized therapies by using aged patients own iPSCs (model experiments)**

Ken-ichi Isobe Department of Immunology, Nagoya University School of Medicine

**Session2 : Longevity control in model organisms**

Chairperson: Toshiro Aigaki (Tokyo Metropolitan Univ)

**JKS4 Lifespan extension by hormesis in Drosophila**

Kyung-Jin Min Department of Biological Sciences, Inha University

**JKS5 Overexpression of malic enzyme in the fat body extends *Drosophila* lifespan**

Joong-Jean Park Korea University, College of Medicine Department of Physiology

**JKS6 Metabolomics approach to understanding lifespan regulation in Drosophila**

Toshiro Aigaki Tokyo Metropolitan University

**Session3 : Mechanisms of cellular protection in aging and aging-related diseases**

Chairperson: Tamao Endo (Tokyo Metropolitan Institute on Gerontology/TMIG)

**JKS7 Nicotinamide-induced alteration of mitochondria status exerts beneficial effects on cellular functions**

Eun Seong Hwang Department of Life Science, University of Seoul

**JKS8 A novel mechanism of p53-mediated DNA repair modulated by antioxidant selenium for cancer prevention**

Young Rok Seo Dongguk University

**JKS9 N-glycan processing and  $\beta$ -amyloid production in Alzheimer's disease**

Tamao Endo Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology (TMIG)

**JKS10 A Protective Role for PAK4 in Parkinson's disease**

Eung-Gook Kim Department of Biochemistry, Chungbuk National University College of Medicine

17:25 – 18:15 口頭発表IV：神経老化

座長：内田 洋子（東京都健康長寿医療センター研究所）

遠藤 昌吾（東京都健康長寿医療センター研究所）

**T22 ミトコンドリア酸化ストレスに惹起される脳内環境の加齢変化と記憶障害**

石井 恭正 東海大学医学部分子生命科学 東海大学教育・研究支援センター

**T23 脳インスリン様シグナル介した脳老化調節機構**

田口 明子 宮崎大学医学部内科学講座神経呼吸内分泌代謝学分野

**T24  $\alpha 4 \beta 2$ 型ニコチン受容体サブタイプの長期刺激は大脳皮質アセチルコリン遊離を増加させる**

内田 さえ 東京都健康長寿医療センター研究所 老化制御研究チーム 自律神経機能

**T25 ホスホチロシンアダプター ShcB 欠損マウスにおける小脳機能とプルキンエ細胞内カルシウムシグナル系の阻害**

柿澤 昌 京都大学大学院薬学研究科生体分子認識学分野

**T26 成体神経幹細胞における Sirt1 の役割**

岸本 憲人 名古屋市立大学大学院 医学研究科 再生医学分野

19:00 – 21:00 日本基礎老学会懇親会

(会場：中之島フェスティバルタワー 2F フェスティバル&ビアホール)

6月6日（木）

場所：大阪国際会議場（ポスター）

8:30 – 11:30 ポスターセッション

9:00 – 10:00 ポスターセッション発表 A（若手）

座長：重本 和宏（東京都健康長寿医療センター研究所）

本山 昇（国立長寿医療研究センター研究所）

YP1 Aged-iPS 細胞の免疫原性

Tanasegaran Suganya 名古屋大学医学部免疫

YP2 老化研究用 TIG 細胞由来の初期化細胞および分化細胞におけるテロメア長の変化と細胞老化

松尾 平 徳島文理大学 香川薬学部

YP3 脂肪細胞におけるオートファジーの役割

水之江 雄平 東京理科大学大学院 薬学研究科 分子病理・代謝学研究室

YP4 カロリー制限がミトコンドリアおよび脂質代謝に及ぼす影響の経時的解析

土屋 拓郎 東京理科大学 薬学部 薬学科 分子病理・代謝学研究室

YP5 Srebp-1c はカロリー制限 (CR) の抗老化・寿命延伸効果に重要である

成田 匠 東京理科大学 薬学部 生命創薬科学科 分子病理・代謝学研究室

YP6 常同行動を誘発するメタンフェタミン慢性投与がマウス線条体に及ぼす影響

井上 律子 東京都健康長寿医療センター研究所 老年病理学研究チーム・神経病態生理

YP7 ホスホジエステラーゼ 3 阻害剤 Cilostazol が若齢マウスの記憶・学習能力に及ぼす効果

柳井 修一 東京都健康長寿医療センター研究所 老化制御研究チーム

YP8 脳の老化抑制作用における緑茶カテキン中の有効成分の検討

高橋 由 静岡県立大学薬学部生物薬品化学分野

YP9 SMP30/GNL ノックアウトマウスを用いたアスコルビン酸摂取量の違いによる寿命への影響

天野 晶子 首都大学東京 理工学研究科 細胞遺伝学研究室

YP10 GADD34 は高脂肪食による脂肪蓄積を予防する

西尾 尚美 名古屋大学大学院医学系研究科 分子細胞免疫学

YP11 老化促進モデルマウス (SAM) の促進老化・短寿命を規定する非同義置換とゲノム構造変異の網羅的探索

谷澤 薫平 早稲田大学スポーツ科学研究科 / 東京都健康長寿医療センター研究所

YP12 加齢が結び付ける eNOS の糖化と血管内皮機能障害 - 糖化抑制は加齢による内皮機能障害を軽減する

城 愛理 東京大学 腎臓・内分泌内科

10:00 – 11:00 ポスターセッション発表 B（一般）

座長：大澤 郁郎（東京都健康長寿医療センター研究所）

丸山 光生（国立長寿医療研究センター研究所）

P1 組織内タウリンの欠乏による寿命及び組織老化への影響

伊藤 崇志 兵庫医療大学

P2 老化促進モデルマウスの筋肉減少および筋力低下に対する eicosapentaenoic acid (EPA) の効果

夏目 有紀枝 名古屋大学大学院医学系研究科健康スポーツ医学分野

P3 骨格筋前駆細胞におけるニッチ構成タンパク質 SPARC の内在化とその加齢性変化

中村 克之 東京大学大学院農学生命科学研究科 博士課程 獣医生理学研究室

- P4 初代培養海馬神経細胞における HDAC6 による mTOR を介したオートファジー誘導シグナル制御機構について  
安田 邦彦 長崎大学医学部神経形態学（解剖学第一）
- P5 Cas/HEF1 associated signal transducer 過剰発現による神経細胞死  
五味 不二也 東京都老人総合研究所・老化制御・老化再生
- P6 老化促進マウス (SAMP8) の記憶障害とアミロイド $\beta$ ペプチド沈着に対する ZSET1446/ST101 の効果  
山口 芳正 全薬工業(株)中央研究所
- P7 プロテオミクスによるヒト大動脈解離症の解析  
三浦 ゆり 東京都健康長寿医療センター 老化機構研究チーム
- P8 動画撮影によるマウス行動の記録と、パラメトリックなデータ解析  
大類 はるな 秋田県立大学大学院 生物資源科学
- P9 ゼブラフィッシュの加齢に伴う DNA メチル化の減少と組織再生との関連の可能性  
下田 修義 国立長寿医療研究センター研究所 再生再建医学研究部

場所：大阪大学中之島センター講演会場に移動

12:00 – 13:00 ランチョンセミナー

座長：北川 正成（タカラバイオ（株）バイオ研究所長）

クロトー：生理機能、分子機能、病態

鍋島 陽一（神戸先端医療センター）

13:15 – 14:25 口頭発表V：組織病態Ⅱ（肺、腎、泌尿器系他）

座長：石神 昭人（東京都健康長寿医療センター研究所）

樋口 京一（信州大学大学院・医学研究科疾患予防医科学系）

- T27 高濃度水素水によるゲフィチニブの急性肺傷害抑制  
大澤 郁朗 東京都健康長寿医療センター研究所・生体環境応答
- T28 老化とエピジェネティクス：加齢と食餌制限によるラット腎臓のヒストン修飾および遺伝子発現変化  
川上 恭司郎 東京都健康長寿医療センター研究所 老化機構研究チーム 老化バイオマーカー
- T29 miR-205 による尿細管細胞のストレス応答制御と尿細管老化の抑制  
稻城 玲子 東京大学医学部腎臓・内分泌内科
- T30 ラット排尿筋収縮反応の加齢性変化に対するカロリー制限食の効果  
伊藤 悠城 東京大学コンチネンス医学・横浜市大医学部 泌尿器科
- T31 細胞質活性酸素と SOD1 は機械的刺激応答に伴う骨量変化を制御する  
清水 孝彦 千葉大学大学院医学研究院 先進加齢医学
- T32 免疫老化における Zizimin ファミリーの機能解析  
松田 剛典（独）国立長寿医療研究センター 研究所 老化機構研究部
- T33 Molecular evidence to the anti-cancer and anti-aging activities in the water extract of Ashwagandha leaves  
カウル スニル（独）産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門

14:40 – 15:30 総会・表彰式

座長：石井 直明（東海大学・医学部分子生命科学）

15:30 閉会挨拶 森 望 長崎大学医学部神経形態学（解剖学第一）

15:40 市民公開講演会 開場

場所：大阪大学中之島センター講演会場

16:00 – 18:00 市民公開講演会「百寿者から学ぶライフスタイル」

座長：森 望（長崎大学医学部神経形態学（解剖学第一））

OL1 百寿者とライフスタイル

森 望 長崎大学 医学部 神経形態学（解剖学第一）

OL2 百寿者エピソードからみた健康長寿達成のヒント

広瀬 信義 慶應義塾大学 医学部内科（老年内科）

OL3 百寿者のミトコンドリアエネルギー

田中 雅嗣 東京都健康長寿医療センター研究所

OL4 百寿者の食養と長寿遺伝子

白澤 卓二 順天堂大学大学院 加齢制御医学講座

OL5 百寿者の脳をみる

石内 勝吾 琉球大学 医学部 神経外科

OL6 106歳を超えて今私が伝えたいこと

昇地 三郎 福岡教育大学（教育心理学）名誉教授

OL7 百寿者の頭脳を考える

大村 裕 九州大学（医学部・大脳生理学）名誉教授

OL8 百寿者万歳

丸山 直記 東京都健康長寿医療センター研究所